

地域医療連携だより 5月号 第35号



4月より医師3名、看護師9名、MSW6名、事務6名の新体制になりました。(地域医療・患者支援センター)

Topics

- 地域医療・患者支援センター センター長就任のご挨拶
- 診療科紹介 循環器内科
- 医局人事異動
- 「香川県がん診療連携協力病院」の指定を受けました
- 脳卒中相談窓口を開設しました

地域医療・患者支援センター センター長就任のご挨拶

2024年4月から高松市立みんなの病院、地域医療・患者支援センター長を拝命いたしました松原俊二です。過去2年間は放射線科 林義典副院長が担当していましたが、定年で退かれましたので、その後を引き継いで運営させていただくこととなりました。

常日頃より当院の診療と医療連携にご支援、ご協力を賜りまして心から感謝申し上げます。当院は宮脇町の旧市民病院から仏生山町に移転開設され、昨年ではや5周年を迎えました。当院が地域医療支援病院としての機能を果たすことができているのも、地域の病院、診療所、介護福祉施設等の多くの医師、看護師、介護師などスタッフの皆様方のおかげです。COVID-19の影響も徐々に薄くなり、直接顔を合わせる機会も増えてきています。今まで以上に皆様と密接に連携をとりたいと考えています。

当センターが主催する研究会、セミナーにつきましても、先生方のご要望にお応えできるよう、様々な分野の最新情報を網羅しながら、工夫を重ねて企画してまいります。これからも年数回の定期開催を予定しています。適宜お知らせいたしますので、お忙しいとは存じますが、多数のご参加をお待ちしています。

できるだけ多くの患者さんを紹介していただき、当院での治療に満足していただき、かかりつけ医、医療施設にお返しすることが私たちの使命と考えております。安全で良質な医療をチームワークで提供できるよう努力していく所存です。当院は高松市の中核公立病院として、急性期医療から地域包括ケアの後方支援まで対応可能な病院を目指しています。診療機能の充実を図り、住民の皆様が安心して良質な医療を受けることができるよう一層の努力をしてきたいと思っております。先生方から忌憚なきご意見を頂戴できましたら幸いです。今後とも、当センターをよろしく願います。

松原 俊二



『心不全パンデミックに チームで取り組む』

循環器疾患は高齢になるほど患者数が多くなり、日本人の死因の第2位となっています（90歳以上の死因では第1位）。近年の急激な高齢化により、慢性心不全の患者数は1年に1万人のペースで増加しており、「心不全パンデミック」を迎えています。

心不全になると繰り返しの入院を必要とすることが多く、特に高齢の患者様は複数の併存疾患を有することから再入院の可能性が高くなります。当院でも心不全入院例は2年間で死亡率20%と予後不良です。入院を重ねるごとに心不全の状態は悪化していくため、再入院を予防することが重要です。当院では以前から週1回看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、MSWを含めた多職種での病棟カンファレンスを開催していました。更に今年4月からは院内心不全チームを発足し、病棟の垣根を越えて、最適な治療やサポートを提供できるよう、取り組む予定です。

また、患者様一人ひとりに適した治療・ケアが可能になるように、地域との連携強化を目標としています。



診療内容

・虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）

急性心筋梗塞に対する緊急カテーテル検査・治療も行っています。また狭心症では最短1泊2日間の入院でのカテーテル検査、日帰りでの冠動脈CTが可能です。運動負荷心電図はトレッドミル、エルゴメータが選択可能であり、患者様の状態に合わせて安全な検査を心がけています。

・失神、徐脈性不整脈

繰り返す失神には詳細な問診を行い、不整脈が疑われる場合には植込み型ループ心電計の手術が、神経調節性失神が疑われる場合にはヘッドアップチルト試験が可能です。また恒久式ペースメーカー植込み術も行っています。



(Abbottホームページより)

・閉塞性動脈硬化症

間欠性跛行や下肢壊疽を認める際にまずABIでスクリーニングを行い、病変を疑う場合には下肢動脈エコー検査、造影CTでの精査を行います。必要に応じ、カテーテル治療が可能です。

・弁膜症

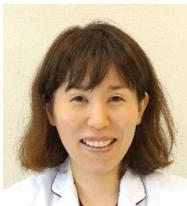
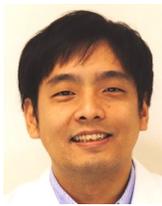
高齢化により増加している大動脈弁狭窄症や心不全に伴う僧帽弁逆流症に対してカテーテル治療の

適応拡大が進んでいます。心エコー検査で詳細な評価を行い、薬物治療でコントロール困難な場合には適切なタイミングで手術可能な施設に紹介しています。

(文責 藤原 美佳)



外来担当表

外来担当	月	火	水	木	金
午前 診療 8:30~11:30 (新患受付 11:00まで)	いとう ひろゆき 伊藤 浩敬 (地域循環器内科 特任助教) 	ふじわら みか 藤原 美佳 (常勤) 	やまだ ひろつぐ 山田 博胤 (地域循環器内科 特任教授) 	みやざき しんいちろう 宮崎 晋一郎 (高松赤十字病院 循環器内科) 	かわばた ゆたか 川端 豊 (徳島大学病院 循環器内科) 
午後 検査			経食道 心エコー検査	カテーテル 検査・治療	カテーテル 検査・治療

※令和6年7月より、藤原医師と山田医師の外来日が変更になる予定です。

医局人事異動 (令和6年4月1日付け)

昇任

副院長・医療局長 (外科) 居村 暁
 院長補佐・診療部長 (脳神経外科) 松原 俊二
 総括部長 (産科・婦人科) 山下 瑞穂

転入

院長補佐 (産科・婦人科) 加藤 剛志
 呼吸器内科 森 彩花
 消化器内科 高橋 勲
 外科 吉川 幸造
 整形外科 平瀬 公威
 耳鼻咽喉科 記本 直輝
 麻酔科 松本 弥子

転出

内科 山口 佑樹
 内科 川地 紘通
 消化器内科 田中 育太
 外科 四方 祐子
 外科 宮崎 克己
 産科・婦人科 笹田 ひかり
 耳鼻咽喉科 両角 遼太
 麻酔科 佐々木 秀人

退職

呼吸器内科 岸本 伸人 ※任期付短時間職員へ
 呼吸器内科 香西 博之 ※会計年度任用職員へ
 放射線科 林 義典 ※任期付短時間職員へ

「香川県がん診療連携協力病院」の指定を受けました

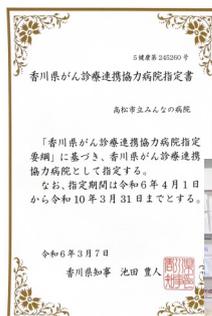
がん診療支援センターは、当院で平成26年に「がん診療推進室」を設置し平成30年の新病院移転に伴い「がん診療支援センター」と名称を変えて以降、患者さんに寄り添いながらその生きる力を大切にしつつ医療を提供してきました。

がん検診による早期発見、早期治療はもとより、患者背景を考えながら患者の人権、価値観を尊重しつつACP(advanced care planning = 人生会議)が行えるように支援、応援してきました。その実績が認められ本年度4月から、国指定の「がん診療連携拠点病院」に準ずる病院として香川県知事より「香川県がん診療連携協力病院」の指定を受けました。

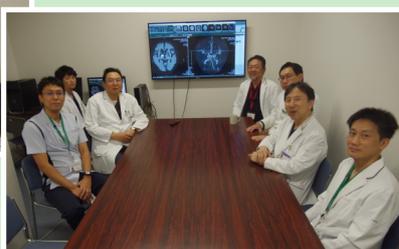
これは、理想だけでは終わらない「がん診療」に日々直面しながらも、弱い立場にある患者さんを第一に医療を提供してきた我々の姿勢を認めていただいた証と考えております。

今後も患者中心 patient-centered care をモットーに、患者さんが癌治療の中で孤独に漂流してしまわないようがん診療をますます強化推進してゆくことに励みます。

今後とも関係医療機関の先生方におかれましては、ご支援のほどよろしくお願いいたします。
(文責 呉 哲彦)



「脳卒中相談窓口」を開設しました



脳の血管が詰まったり、破れて出血することで起こるのが脳卒中です。発症すると、麻痺や嚥下機能、認知機能などに後遺症が残り、生活や仕事に影響を及ぼします。

当院では、脳卒中療養相談士の講習を受けた医療ソーシャルワーカーが窓口となり、脳卒中患者様の相談をお受けしております。例えば、

- ・リハビリテーションについて
- ・就労について
- ・障害年金の申請について
- ・介護保険制度について
- ・障害者手帳の申請について
- ・栄養について

などの相談をお受けし、患者様が住み慣れた地域で生き生きと過ごすサポートをさせていただきます。

**FAX予約を
お願いします**



患者さんをご紹介いただく際に、地域医療・患者支援センターへ事前にFAX予約をお願いいたします。

受付時間	平日(月～金) 8時30分～18時00分
	土曜日 9時30分～13時00分 ※土曜日はFAX予約受付のみ
電話	(087)813-7171(代表) / (087)813-6699(紹介予約専用)
FAX	(087)813-6799(直通) 0120-834-224(フリーダイヤル ) ※フリーダイヤルは県内固定電話のみ対応しております。